

2N-77

特24
201



058760-000-8

特24-201

内外大醫之秘法集

恒石 千惠次/著

M21

CBC-0312

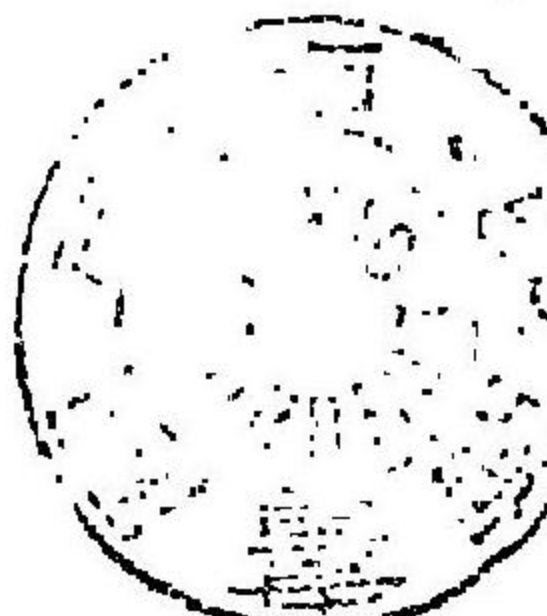
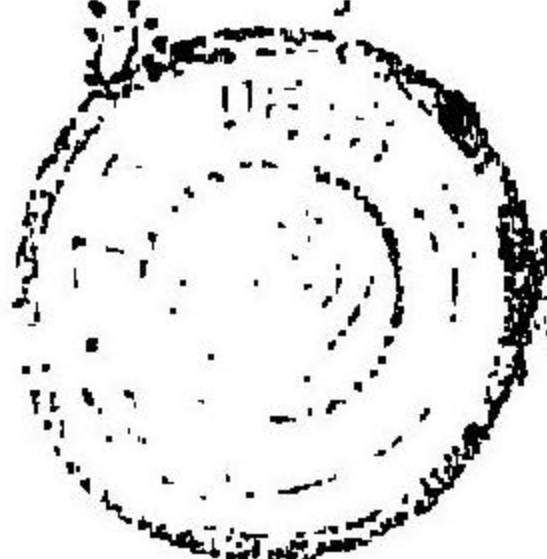


No 12295

確効 証 内外大醫之秘法集

目次

- 人間不時病豫防法及糖神培養法
- 身体の肥満を防ぐ法
- 氣力の衰へざる法
- 物を記憶する法
- 頭髮の縮を直す法 二法
- 赤毛を黒くする法
- 白毛を黒毛に換ゆる法
- 黒毛を赤くし艶を出す法
- 毛を縮はしむる法
- 色を白くする法 三法
- 全体のきめを細かよする法
- 身体のおぎ及びはくろを去る法



- 毛を生き法 三法
- 口中の臭氣を除之法
- 各種のがんがきを直す法 二法
- 淋病を直す法 三法
- 去よりあちあしけを直す法
- 腋の下乃臭氣を除之法 三法
- 懐妊法
- 梅毒を防之法
- 天然痘を治療する法
- 白黒あまきを直す法 二法
- ぬむしを直す法
- 避妊法
- 月経の不順を治す法 一法

奏効 内外大醫之秘法集

●人間不時病豫防法及精神培養法

我國人民は歐米人と比較するに我人民は體格薄弱矮小にして顔色蒼色常は菜色を呈し神經力殊に乏しく忍耐力少き者多きは争ふ可からざる乃事實あり然るも我國の人民ある者往らば天然に歸せしめて我々自から身體精神を培養せざる可からざるにして平素之を培養するに法を先づ冷水養生法を行ふあり抑も身體は冷水を外用するに於て第一と皮膚を清潔にまて且つ鞏固ならしむ第二と皮膚を冷えて寒冷に堪へしむ第三と神經系は官能を強くまて精神を爽快ならしむ第四は消化力を増進せらるる第五と呼吸器を強して反射作用を起し深吸器を強はまむ第六は病魔の侵襲を防ぐ第七と子孫に健全な及ぼすに實あり右の東西古今該法を實行せざる者に就きて其眞然なるを遺憾す可ま且つ此法の獨り健全體に施して利あるのみならず病弱の人と雖も

之を行へば亦偉効を奏すべし借其法の第一最を單易乃方法に由れば毎朝手拭を冷水浸し以て其拭ひある部分を摩擦するにあり冷水は温度は各人の強弱に從て斟酌すべく虚弱なまて感覺過敏の人の最初は温水を用ひ漸々其温度を減せし第二と雨浴を用ふる時間と最初は十五分にして足より虚弱ある人の微温水を用ひ以て始は漸々冷水を用ひべし且時間も亦漸々延長して二三分に至らまひべし第三は冷水に浴する中身體を摩擦し温感を覺ゆるに度として浴を直ちに乾布を以て強々全身を摩擦し開豁氣中に運動をせし第四冷水澆法は桶中に冷水を貯へ此に全体に澆漑を次て布片を以て全体を摩擦して乾らまべし右の如く冷水養生法は其用法最を單簡にして別に費用を要せざる器具は少しを入費するのみ時間の消費を僅に一回四五分時を出てを斯る簡便の法にして身體を強壯ならしめ精神力を爽快活潑ならしむるの大効あるを勉て之を行ふべし之を行ふに暫らざるを續くうち

よの自から身神とも爽快遊覺ゆるよ至るべし又之遊行ふ時期は毎朝臥襟遊離をある際尤を佳ありてま一日數回を行へば尙や佳あり人々宜まを心掛之べきよとあり

● 人体の肥満を防ぐ法

人体の肥満を防ぐは四種の方法あり

第一 澱粉、糖分、脂肪の三質を含める食物を節用せる事

第二 澱粉、糖分、乃二質を含める食物を節用せる事

第三 毛織製の衣服を着し「フランネル」の夜具を用ゆる事

第四 飲食を同時よせを其間よ二時間を隔つる事あり此法は近年

ハウアリア國に博士シロウエンジャ氏の發明よして彼のピスマーシク公乃肥満を止めぬりと言

● 氣力の衰へる法

牡蠣殼を細粉よし人參を少し混和して飲むべきは決して氣力の衰

ふることなし

● 物を記憶せる法

平素消化物ヲ食し飲食の度を節し且房事を慎めば大よ功あり又毎朝ペプシネ酒を食後よ一匁宛服せし

● 頭髮を縮を直す法

第一法 青桐の生實燻打ち酔き是れ燻木綿の袋よ入れ其口燻能々絞り置然として土製れ鍋に清水一升の割合に温飴粉貳合を加へ能々攪拌去其中へ右袋燻一時間浸し後ち引上げ自然よ其水氣燻去らまめ其能之水氣乃去りぬれば之れ燻強く搾るべし其搾る汁へ香水又ハ香油燻少許加へ通常澆油を付くる如之塗り付ければ又青桐生實を採り時候よ根燻採り其上皮燻剥り捨て細抹にまて前手續け方法よあそべし

第二法 切り炭燻ホーロク(皿燻如きもの)よて能之イリ是きに椿燻

實(皮のま)一升を清水三升と混じ一舛五合に煎ぎ詰めある液と混し
後ち切り炭は温なる味液以て髪を毎度撫るべし

●赤毛液黒くする法

一芫菁丁幾四拾匁 一グリソリン三拾貳匁 一アモニヤ四十匁 一
薔薇水拾六匁 一アルコール一貫目
右五品液順次と混和して瓶又と罐中に密閉しをくべし此薬を用ゆれ
ば香氣ありて赤毛液黒くく去艶液出すは妙なり

●白毛液黒毛に換ゆる法

頭髮之勿論頭液石鹼よて能く洗ひ然えて白毛液抜き其痕へ胡桃の實
を打砕き細抹に去種油液少許加へて十分と塗り付けべし

●黒毛液赤く去艶液出す法

生姜の皮拾匁胡麻の油よて煎ぎ泥は如くよし髪へ十分と塗り付けれ
ば赤くなるは妙なり

●毛を縮はまむる法

明礬三匁を清水一舛に溶き毎日二度位宛髪液洗ふべし縮むは妙なり

●色を白くする法

第一法 水仙花ノ根又ハ彼岸花ノ根(新ラシキモノ)拾五個液打砕き
白木綿袋に入れ其口液能く絞め然えて鉄氣な汽鍋に清水一舛
を入れ其中へ葛粉一合液加へ能く攪拌し後ち前の袋液凡て一時
間程浸みて引上げ自然に其袋は水液ぬらえ後ち強く搾るべし然
うするはたわ糊の如き汁液得べし此汁五勺程に雞卵の白身一個
を加へ白絹又ハ金巾にて製しある恰を糖袋は如き袋に入れ入浴
の際身体液洗ふべし然るをば身体は色白くなるのみならず「キ
メ」を細かよし艶を出さべし

第二法 古木白檀壹匁、丁子五匁、白龍腦一匁、サンナ(新ラシキ
モノ)壹匁、和蘭八角大茴香壹匁、

右五品燄蒸露罐(ランビキ)の中壇は竹簀燄敷に其上は置に下壇は絲爪水六合燄入れ文火よて蒸露し瓶口は移去凡燄二合の水藥燄取るべし此れを毎日二度位宛塗抹をべし

第三法 白檀木油拾八瓦、洋紅五瓦、玫瑰油二十瓦、米粉七千瓦右四品を混和し白絹或は金巾よて篩し瓶又は罐中に密閉し置に用よ供をべし

●全体のキメを細かにする法

「グスリン」拾々水五匁、微醬水五分以上三品ヲ混和シテ顔面及び身体よ抹り込むべし

●身体のはげ及びひやくろを去る法

はげ燄直まよの昇乘一グレン蒸溜水十チンス燄溶留し毎日三四回宛羽毛又と筆よて其上に塗附をべしやくろを去るよはるゆらの實を能くとり洗ふして毎夜黒子の上よぬるべし奇功の法あり

●毛燄生を法

第一法 第一毛燄生をべき處燄石鹼よて清々三四回洗ぬべし第二海綿を細るにし之れを清水にて沸騰点まで煮然えて引上げ少ま之水氣を去らし乾之きを木綿切よ包み冷度迄毛を生すべき處へ當て置くこと三四回とす第三胡桃の實を採り打ち砕に中の白灰身燄細抹よし之れを少許れ香水又は種油を加へ十分に塗り付けべし

第二法 芫菁幾丁半匁、肉荳蔻油半マラグラム、刺賢埜兒油二拾滴、芳香水二匁

右四品を混和し製すべし此液を羽毛筆之類乃回にて一日三四宛塗り後をべし

第三法 芫菁醋半匁、芳香水一匁、醬薇水一匁

右三品を混和し製するを佳あり

●口中の臭氣燄除く法

機那皮抹或は機那エン液清水一合の割合よ五分加へ能く攪抹えて溶
解せしめ其中へ鹽酸加里四五滴を濯洗尙は能く攪抹え其能く攪抹え
ぬまば此をを一口宛口中よ含え凡て五六分時間よして吐き出し一日
八九回やせば數日間よして除云とるを好あり

●各種乃ぶんがきを直と法

昇汞一ケレン、蒸溜水二拾テンス、雞卵は白身二個以上三品ヲ混和
して患部よ塗り付けべし

右の方法にて治療せざるるときわマンテイカ五分硫黄一匁石炭酸四滴
清水五令ヲ混和え士鍋ニ入レ能く沸あして後ち少ま之冷ま之毎日三
回位患部よ塗り付けべし

●林病を直と法

第一法 批把之葉拾五匁白大豆拾五粒白糖三匁以上清水五令ニテ
三合までよ煎じ一日三回一令宛服用せべし

第二法 皓礬三ケレン、鉛糖三ケレン「ラウダニユーム」拾滴以上三品

液清水三テンスニ加へ能く攪拌してスポイト(注射器)にて注射し
數回の後微温湯にて洗ふべし

第三法 重症よまて治ま雖きものとラーピス(硝酸銀)一厘三毛よ蒸溜
水一テンスを加へスポイトにて注射とること數回後ち微温湯に
て洗ふべし

●まよううちままけを直と法

第一法 まよのちままけ液憂ふる人は一日貳回乃至三回宛坐浴す
べし其坐浴は清水壹斗よ食鹽の燒たぬるも乃壹合を加へ沸騰せ
しめ後百度迄に冷却まぬるは後ち十分時間程能く洗ふべし

第二法 微温湯液以て陰部液能く洗む後食鹽を燒た木綿切包を陰
部よ挟と置く事壹日二回乃至三回すべし

●腋の下は臭氣滅除之法

第一法 兩腋にほる毛燧悉く除くべし但し痛燧覺ゆれば灰汁を三四回塗り付之れば容易に根元得るなり第二海綿燧可成小を之きり清水にて沸騰点まで煮然して引き揚げ少しく水氣を去らしめ是燧木綿切に包み冷度まで腋挟むべし第三麥飯(米の少しも交ざるを好)壹合に石炭酸五六滴燧濯き尙燧生姜の汁を加へ是れ燧木綿切に包み冷度迄腋挟むべし

第二法 毎日石鹼燧以て洗滌を十分に清潔をらしめ後ち官粉を頻りに塗擦すべし

第三法 前法に如く洗滌をせしめ禁糖十グレン鉛糖十グレン燧水に溶解して塗抹すべし

● 懷妊法

是れは總て男女で之を平素滋養分ノ多き消化物を食ふ身体を健康ならしめ置然して婦人月經の止まりたる後七日目より十日目までの

内に懷妊するを好まれば其際交合をなせば多々懷胎するを乃なり又平素過度に交合燧なせば懷妊するに難し

● 梅毒を除く法

梅毒を防ぐに種種の説ありを先づ色事を慎むにあり又色事をなしたる後ち前器燧微温水或は小便燧以て十分に洗ひおぼは大体防くを好ま

● 天然痘を治療する法

第一雞卵に表皮を焼く細抹として糠に混せ入浴に時摺り付けべし第二雞卵の白身を痘痕の個所へ摺り込むべし

● 白黒なほを直す法

第一法 硼砂一チونس半、ユウデコロシ四チونس水揚酸(サリルルサン)一チونس

右燧調合して日二三四度塗抹すべし大約三週日間に治すべし

第二法 白きほを治するは硫黃を生姜の汁に浸し其上に擦すべし

●ぬひまを直す法

硫黄花一ナンス石炭二ナンス清水六ナンス以上三品炭能く混和し土鍋にて煎し攪拌し後、凡て一時間許り煎し詰之を燻静りし冷やまて其上汁を取り患部へ塗抹し凡て十分時燻經ある後石鹼にて洗ふ落すべし

●避妊法

前懐妊法より反して婦人月経の後ち貳週日乃至十六日目過りて交合すれば決まて懐妊するよやあし

●月経の不順を治す法

第一法 懐胎よりあらずし月経不順あるときわ一日二回乃至三回坐浴をせば治するものなり

第二法 第一法を行ひ功あきあきわ坐浴の後微温湯にて陰内を

「スポイト」(子宮注射器)にて十分よ洗ふべし

内外大醫之秘法集大尾

明治廿一年十一月五日印刷
全年同月十五日出版

定 價 金 五 拾 錢

全 年 月 日 發 行

著 作 兼 發 行 者
大坂東區内淡路町壹丁目廿參番地
恒 石 千 惠 次

印 刷
大坂東區内淡路町貳丁目七番地
武 田 忠 造

發 賣 所
大坂東區内淡路町壹丁目八十五番邸
集 榮 堂 書 房

